

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その1)

施策体系コード	5-1-1		事業名	パシフィック・ミュージック・フェスティバル事業費補助
担当	観)文化市民文化課 長谷川 Tel211-2261			
全 体 計 画				
事業内容	アメリカの「タングルウッド音楽祭」、ドイツの「シュレスヴィヒ・ホルシュタイン音楽祭」と並ぶ世界3大教育音楽祭として成長を続けているパシフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)について、財団法人パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会に対し、事業費の補助等を行う。		＜年度別の事業内容＞	
	<PMFの内容> 1 PMF演奏会の開催/PMFオーケストラ、PMFアカデミーアンサンブル等 2 PMFアカデミーへの教育 3 音楽普及プログラムの開催/聴講生制度等		19年度から22年度についても引続き、教育事業、演奏会事業、音楽普及事業を行っていく。 なお、20年度については「レナード・バーンスタイン生誕90年」のガラ・コンサート、「オリヴィエ・メシアン生誕100年」の記念コンサートを行う。 21年度にはPMF創設から20回目の開催を迎えるため、これを記念した様々なプログラムを企画する。	
事業内容	平成19年度事業内容(決算)		平成20年度事業内容(決算)	
	[事業内容] 1 PMF演奏会の開催/PMFオーケストラ、PMFアカデミーアンサンブル等 2 PMFアカデミーへの教育 3 音楽普及プログラムの開催/聴講生制度等 [量・場所・規模・件数など] オーディション受験者総数は1,465人 (なお、オーケストラコースのオーディション応募者数は1,374人) 合格者は22カ国・地域の129人 7月7日から8月1日までの期間中、全国で45公演を行い、50,447人を動員 [その他/具体的な内容] アンサンブル・サンデー 実施 アラカルト・コンサート 実施 例年行っている各種コンサート		[事業内容] 1 PMF演奏会の開催/PMFオーケストラ、PMFアカデミーアンサンブル等 2 PMFアカデミーへの教育 3 音楽普及プログラムの開催/聴講生制度等 [量・場所・規模・件数など] オーディション受験者総数は1,388人 (なお、オーケストラコースのオーディション応募者数は1,272人) 合格者は18カ国・地域の128人 7月5日から7月31日までの期間中、全国で43公演を行い、44,118人を動員 [その他/具体的な内容] レナード・バーンスタイン生誕90年 ガラ・コンサート オリヴィエ・メシアン生誕100年 記念コンサート 例年行っている各種コンサート	
事業内容	平成21年度事業内容(決算)		平成22年度事業内容(予算)	
	[事業内容] 1 PMF演奏会の開催/PMFオーケストラ、PMFアンバーサリーオーケストラ、PMFアカデミーアンサンブル等 2 PMFアカデミーへの教育 3 音楽普及プログラムの開催/オープンリハーサル等 [量・場所・規模・件数など] オーディション受験者総数は1,532人 (なお、オーケストラコースのオーディション応募者数は1,427人) 合格者は18カ国・地域の129人 7月4日から7月29日までの期間中、全国で48公演を行い(49公演予定のうち1公演中止)、44,263人を動員 [その他/具体的な内容] 20回目の記念年としての特別企画として ・PMFアンバーサリーオーケストラの結成、公演 ・PMF History(パネル展示)の実施 など そのほか、例年行っている各種コンサート		[事業内容] 1 PMF演奏会の開催/PMFオーケストラ、PMFファカルティ(教授陣)等 2 PMFアカデミーへの教育 3 音楽普及プログラムの開催/オープンリハーサル等 [量・場所・規模・件数など] オーディション受験者総数は1,363人 (なお、オーケストラコースのオーディション応募者数は1,987人) 合格者は18カ国・地域の91人 7月8日から8月4日までの期間中、全国で36公演を行い、36,850人を動員予定 [その他/具体的な内容] ・14年ぶりとなるオペラ上演(演奏会形式) ・浜松市と札幌市の「音楽文化都市交流宣言」に伴う連携企画として、浜松国際ピアノコンクール優勝者がPMFオーケストラと共演 そのほか、例年行っている各種コンサート	

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その2)

施策体系コード	5-1-1			事業名	パシフィック・ミュージック・フェスティバル事業費補助		
達成目標の状況							
項目	18年度末 (現 状)	19年度末 (実 績)	20年度末 (実 績)	21年度 (実 績)	22年度末 (予 定)	22年度末 (目 標)	
PMFで指導を受けるためのオーディション(オーケストラコース)応募者数	1,348人	1,374人	1,272人	1,427人	1,987人	1,468人	
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>■市民との連携、市民参加 演奏会の入場者へのアンケートを行い、その結果を事業に反映させている。 また、様々な市民ボランティアが、コンサート当日の会場管理などに積極的に参加しているほか、アカデミー生に対するおもてなしを企画するなど、日本文化の発信及び国際的な文化交流の架け橋として協力いただいている。</p> <p>■企業等との連携・協働 [資金協力] グランド・パートナーズをはじめとした企業からの協賛金や寄付金などにより、レベルの高い事業運営が維持できるものであり、こうした協力により、市民が世界の優れた音楽を低廉な料金で楽しむことができる。 [人材協力] (該当なし) [情報協力] 企業のホームページや関連情報誌への掲載による市民の事業認知度及び事業理解度の向上が期待できる。 [その他の協力] 楽器や事務機器などの現物協力により、スムーズに事業を進行することができる。</p> <p>■市民・企業等が参加しやすい環境づくり 公式ホームページの更新や、最新情報を記載したチラシの配布・ポスターの掲示及び入場無料のアウトリーチコンサートにより、事業の情報発信を積極的に行い、多くの市民が参加出来るように工夫している。 また、PMFは企業の協力を核として成り立っているものであり、各企業名についてはホームページやパンフレット、ポスターなどに掲出し、協賛・寄附をいただいたことへの感謝の意を表している。</p>							
評 価 (成 果)			課 題				
<p>PMFはレナード・バーンスタインの提唱により開催され、本市がその遺志を引き継ぎ、民間企業などの協力を得ながら発展させてきた国際教育音楽祭である。世界3大教育音楽祭の一つと称されるなど世界的にも評価が高く、開催地としての本市の海外知名度の向上に大きく貢献している。 また、世界の一流音楽家たちによる演奏をアカデミー生や市民が音楽教育・普及の一環として低廉な金額で聴けることは集客交流資源としてだけでなく、市民の文化芸術の振興に大きく寄与している。 さらに、練習風景やリハーサルを見学できるオープンリハーサルや音楽指導者向けセミナーなど、本市を中心とした音楽教育の発展にも寄与している。</p>			<p>景気低迷による企業協賛の減少による厳しい財政状況を改善するために、より一層の協賛企業の獲得に取り組む必要がある。</p>				
今 後 の 事 業 の 予 定 ・ 方 向							
<p>これまで同様、教授陣やアカデミー生、演奏会の入場者に対するアンケートの結果などを、翌年以降の事業内容や管理に活かし、よりわかりやすく、市民に愛される教育音楽祭になるよう、魅力アップに努める。 また、今後も親しみやすいプログラムの創設など、新たな試み続けながら引続き事業を継続することで、音楽文化の普及・振興、本市のブランドイメージのさらなる向上、PMFで行われる事業を通じた人材の育成、音楽文化を通じた集客交流に貢献していく。</p>							

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

施策体系コード		5-1-1			事業名	パシフィック・ミュージック・フェスティバル事業費補助				
事業費の推移										
項目				19年度	20年度	21年度	22年度	計		
計画	事業費			173,410	166,200	159,200	159,100	657,910		
	財源内訳	国・道	支出金	0	0	0	0	0		
		市	債	0	0	0	0	0		
		その他		48,000	41,000	34,000	34,000	157,000		
		一般財源		125,410	125,200	125,200	125,100	500,910		
予算	事業費			173,410	166,320	159,240	159,240	658,210		
	財源内訳	国・道	支出金	0	0	0	0	0		
		市	債	0	0	0	0	0		
		その他		48,000	41,000	34,000	34,000	157,000		
		一般財源		125,410	125,320	125,240	125,240	501,210		
実績	事業費			173,227	166,204	159,172	-	498,603		
	財源内訳	国・道	支出金	0	0	0		0		
		市	債	0	0	0		0		
		その他		48,000	41,000	34,000		123,000		
		一般財源		125,227	125,204	125,172		375,603		
事業費の進捗率				(H19実績+H20実績+H21実績+H22予算事業費) / (計画事業費)					100.0%	
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)										
《全体》										
[19年度]										
[20年度]										
[21年度]										
[22年度]										